

幼 児 教 育 指 導 案

令和7年10月 5歳児 指導者 川島 奈津子

1 研究との関わり

幼児期は、信頼できる保護者や教師など大人への依存を基盤としつつ自立へ向かう時期である。自分でやりたいという意識が強くなる一方で、信頼できる保護者や教師などにまだ依存していたいという気持ちも強く残っている時期だとされている。幼児は、いつでも温かく見守られ、支えられているという安心感を基盤にして、初めて自分の力で様々な活動に取り組むことができる。また、幼児期において、依存と自立の関係を十分に体験することは、将来にわたって人と関わり、充実した生活を営むために、大切なことである。

日頃の幼児の姿を見てみると、自分の好きなことや興味のあることに好奇心をもって進んで関わって遊んでいる。しかし、興味や好奇心をもって遊び始めるが、途中でうまくいかなかったり、失敗したりしてしまうと、やり続けようとせずにやめてしまうことがある。また、失敗することや競うこと、負けることを怖がり、取り組もうとしない幼児もいる。

実際の保育では、幼児が自分なりの思いや願いをもち、自分の好きな遊びを十分に楽しみ、自分の世界を広げていく中で、「やってみよう」「挑戦してみよう」などという気持ちを自ら発揮して遊ぶようにしたい。幼児が「挑戦しなくては…」「やり遂げなくては…」と重圧を感じるのではなく、自分の思いや願いを実現するために、楽しみながら、考えたり、工夫したり、試行錯誤したりするようにしていきたい。

そのため、教師は、幼児が温かく見守られ、支えられているという安心感をもてる働きかけや温かく支援的な風土づくりを行う。そして、その中で「やってみよう」「もっとやりたい」「もっと知りたい」「やり遂げたい」などの気持ちを幼児自ら発揮できる状況づくりを行い、必要に応じた適切な働きかけを行っていく。これらの援助を行うためには、教師が幼児理解を深め、一人一人の幼児の「発達の課題」を把握することが重要である。一人一人の幼児の内面の心の動きを深めながら、学級や園全体の友達とのつながりや関係性を記録する相関図記録「つながりマップ」を基に、幼児理解を深め、一人一人の幼児の「発達の課題」を把握していきたい。

2 指導計画（16名）

期	月	発達の過程	テーマに関係する幼児の姿	研究に関する ○ねらい及び●内容
XI	4 5	・いろいろな遊びを楽しんだり、先生や友達と関わったりしながら、新しい環境に慣れていく時期	・年長児になった喜びや期待をもって登園する幼児が多いが、中には担任や保育室が変わり、不安や戸惑いを感じる幼児もいる。 ・自分の好きな遊びを見付け、今まで経験したことを思い出しながら遊んだり、年中児のときに見ていた年長児の遊びに興味をもって取り組んだりする。	○先生や友達に親しみを持ち、一緒に好きな遊びを楽しむようになる。 ●自分の好きな遊びや安心できる場を見付けて遊ぶ。 ●自分のしたいことやしてほしいことを言葉で伝える。
XII	6 7	・友達と一緒にいろいろな遊びにじっくりと取り組	・自分からしたい遊びを見付け、友達と誘い合っ	○自分なりの思いや願いをもって、試したり、工夫し

		む時期	遊ぶようになる。 ・ルールのある遊びや集団遊びに興味をもち、先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。	たりして遊ぶようになる。 ●自分なりに作ったり、試したりして遊ぶ。 ●思いや考えを友達や先生に伝えながら遊ぶ。
XIII	9 10	・友達と共通の願いや目的をもち、意欲的に遊びや活動に取り組む時期	・自分の目的を実現するために、試行錯誤しながら遊ぶようになる。うまくいかずに、遊びが中断することもあるが、教師や友達の働きかけで再び取り組むようになる。 ・友達と共通の願いや目的をもって遊ぶようになる。友達同士で遊びを進めようとするが、思いやイメージを共有できず、遊びが中断することもある。	○自分の目的を実現するために、試したり、工夫したり、挑戦したりして遊ぶようになる。 ○気の合う友達や興味が重なる友達と共通の願いや目的をもって遊ぶ楽しさを味わうようになる。 ●自分のしたいことや友達にしてほしいことを伝え合い、イメージや願いを共有しながら遊ぶ。
XIV	11 12	・友達と共通の願いや目的をもち、工夫したり、協力したりして遊びや活動を進める時期	・自分の思いを友達に分かってもらいたい、聞いてほしいという思いをもち、意識して話すようになる。 ・友達の思いや考えに思いを巡らせ、折り合いを付けながら遊びを進めようとする姿が見られるようになる。	○気の合う友達や興味が重なる友達と、共通の願いや目的をもち、工夫したり、協力したりする楽しさを味わうようになる。 ●共通のイメージや目的を実現するために、友達と一緒に協力したり、工夫したりする。
XV	1 2 3	・友達との中で自己発揮しながら、自信をもって、遊びや生活を進めていこうとする時期	・共通の願いや目的に向かって、仲間と考えを出し合ったり、折り合いを付けたりしながら、工夫したり、協力したりして遊びや活動に取り組む。	○学級の仲間と共通の願いや目的をもち、工夫したり、協力したりして遊びを進める楽しさを味わうようになる。 ●共通の目的に向かって、仲間と一緒に工夫したり、協力したりして遊びや活動を進める。

3 前週の幼児の姿とそこから捉えた発達

☆A児、B児は二人で植物について、図鑑やタブレットで調べながら「ラフレシア」「ウツボカズラ」「ハエトリソウ」など絵や名前を書いて模造紙に貼り、植物園を作った。出来上がった植物園を廊下の壁に貼り、思ったことや知っていることなどを伝え合っていた。

☆D児、L児は二人で衝立を組み合わせて場を作り、そこに入って遊んでいた。衝立の網が牢屋に見えたことから、泥棒ごっこを始めた。L児は、教師に警察役になることを要求し、以前自分がガム

テープで作った手錠を渡した。宝を盗むまねをして、警察役の教師に捕まって牢屋に入ったり、そこから逃げ出そうとしたりするなど、泥棒になりきって遊んでいた。

☆翌日、担任から、泥棒と警察の鬼ごっこ（警泥）があることを知らされると、D児、L児、M児は「やりたい」「やろうぜ」と話し、L児は「警泥やる人？」と周りの幼児にも聞こえるような大きな声で呼び掛けた。興味をもったA児、B児、C児、J児も仲間に加わった。

☆A児は、警察に捕まると、顔をしかめながら牢屋に入ったが、B児が助けに向かってきていることが分かると明るい表情になり、助けてもらおうと「ありがとう」と笑顔で逃げた。途中B児が警察に捕まり、「Aちゃん助けて！」とA児に助けを求めた。A児は近くにいた教師に「捕まるのが嫌なんだよな」と話した。「でも、Bちゃん助けてくれるしな、助けよう」と警察役の幼児の動きをよく見て、捕まらないようにB児を助けにいった。A児に助けられたB児は「Aちゃん、ありがとう」と笑顔で話し、二人で手をつないで一緒に逃げた。

☆D児、J児、K児、M児たちは、ハチマキを付けてチームに分かれ、リレーを始めた。G児も仲間に加わったが、ルールを無視して遊ぶことから、もめごとになった。また、J児、K児は差が開いたり、負けそうになったりすると「やめた」「もうやらない」と走るのをやめた。他の幼児は「なんでだよ」「頑張ってるよ」などとJ児、K児に声を掛けながら、次の順番の幼児が駆け寄り、置いたままになっていたバトンを持って走った。

このように、気の合う友達と誘い合って遊んだり、友達のしている遊びに興味をもち、自分も仲間に加わったりして、友達と遊ぶ楽しさや心地よさを感じながら遊んでいる姿を捉えた。また、友達の存在や友達の言葉に励まされ、「やってみよう」「挑戦してみよう」「やり続けよう」という気持ちをもつようになってきていると捉える。今週も自分なりに思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりしてほしい。

一方、集団で遊んだり、ルールのある遊びに取り組んだりする中で、自分のやりたいことが友達の行動の結果、実現できなくなり、悲しさや悔しさを感じたり、それがきっかけとなってもめごとが起こったりすることもでてきた。友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、協力したりして一緒に遊びや活動を進める楽しさも味わってほしい。

4 今週の保育

(1) 今週のねらい

- 自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりする。
- 友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、協力したりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(2) 今週の内容

- ①自分なりの思いや願いをもち、繰り返し取り組んだり、考えたり工夫したりして遊ぶ。
- ②戸外で体を動かして遊ぶ。
- ③気の合う友達や興味が重なる友達と、共通の願いや目的をもって遊ぶ。
- ④自分の思いやイメージ、考えを友達と伝え合う。

(3) 今週の環境の構成の視点

①に関わって

- ・「つながりマップ」を基に、幼児の興味や関心、幼児同士のつながりや関係性を捉えることや、幼児のもつ思いや願いの読み取りに努め、幼児がしたいと思っていることが実現できるような遊具や用具、材料などを準備しておく。
- ・幼児が運んだり置き方を考えたりして、自分たちで場を作って遊ぶことができるように、整理して用具（ごぎ、段ボール、パーテーション、コンテナ、ジョイントマットなど）を置いておく。

- ・自分の作りたいものに合う材料が探せるように、製作材料を種類別に置いておく。状況に応じて、幼児が作りたいと思っているものを自分で考え実現させることができるよう、幼児のもつ思いやイメージを引き出したり、アイデアや材料を提示して選べるようにしたりするなど援助していく。
- ・遊びに取り組む中で、やり続ける気持ちがなくなってしまうたりあきらめてしまったりしたときには期待をもって様子を見守り、幼児自身が「やってみよう」「やり遂げよう」という気持ちが発揮できるような状況を作っていくことを頭におき、一人一人に応じて援助していく。

②に関わって

- ・戸外で体を動かして遊ぶように、リレーのバトン、はちまき、コーン、ボール、ドッジボール、縄跳び、長縄跳び、フラフープ、コンテナ、CDデッキ、旗、ポンポン、バルーンなどを準備する。教師も体を動かして遊ぶことを一緒に楽しみ、楽しさや心地よさに共感する。
- ・泥警やバナナ鬼などの鬼遊び、しっぽ取り、リレーなどのルールのある遊びでは、遊ぶ様子を見守ったり、時には仲間の一員として遊びに入り、楽しい雰囲気となるよう遊びを盛り上げたりする。ルールの理解が難しい幼児には、ルールを守る理由を分かりやすく伝え、視覚的な支援を活用したり、モデルを示したりして、ルールを意識して遊べるようにする。

③に関わって

- ・幼児同士が互いに関わっていくように、保育室や園庭どちらからも遊びの様子が見えるようにしたり、戸を開放したりする。
- ・往来する幼児同士の交流がもてるように、製作材料や道具、テーブルなどを保育室出入口近くやテラスに準備する。
- ・遊びの中の幼児同士のやりとりや「つながりマップ」から読み取ったそれまでの幼児同士の関わりや関係性を参考に、共通の願いや目的が生まれていく過程を見守っていく。また、必要に応じて自分たちなりの考えをより明確にしたり、一層楽しくなるような工夫の共有化につながったりする言葉掛けを行う。そのときに、一人一人の幼児の発達や友達との関わり方の違いを考慮し、必要に応じて援助していく。

④に関わって

- ・したいことや相手にしてほしいことなどを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりして遊ぶ姿を見守っていく。時には、教師が言葉を補ったり、モデルとなったりして、相手に分かる言葉で伝えることへの必要感や、相手が伝えようとしていることに注意を向けることへの必要感を幼児が感じられるようにしていく。
- ・もめごとの際には、「つながりマップ」から読み取ったそれまでの幼児同士の関わりや関係性を参考に、それぞれの思いを幼児が友達に伝えられる状況を作り、互いに相手の思いを聞いたり、それを受けて考えたりすることができるようにしていく。また、その中で、幼児が自分の存在感を感じたり、前向きな見通しをもったりできるような状況づくりを行っていく。

5 本日の保育

(1) ねらい

- 自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりする。
- 友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、協力したりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

(2) 内容

- 自分なりの思いや願いをもち、繰り返し取り組んだり、考えたり工夫したりして遊ぶ。
- 戸外で体を動かして遊ぶ。
- 気の合う友達や興味が重なる友達と、共通の願いや目的をもって遊ぶ。
- 自分の思いやイメージ、考えを友達と伝え合う。

(3) 展開

時刻 (目安)	◎環境の構成 ☆予想される幼児の姿 ◆環境の再構成や援助 □研究上の手立て
思い思いに遊ぶ (9:00 ~ 10:40 ごろ)	<p>☆登園し、所持品の始末をする。</p> <p>◆幼児一人一人と挨拶を交わし、温かい雰囲気を迎える。</p> <hr/> <p>◎ひよこの部屋前にリングバトン、カラーコーン、ハチマキ、CDデッキ、ミニバルーンを置いておく。(ア)</p> <p>☆全力で走ったり、友達と競ったりしながらリレーを行うだろう。また、友達を応援する幼児もいるだろう。</p> <p>☆D児、J児、K児、M児は、互いに誘い合い、なりたいチームのハチマキを付けて、コーンを準備し、自分たちで遊びを始めるかもしれない。また、興味をもって、遊びに入ったり、遊びの様子を見ていたりする年少児や年中児に声を掛けたり、遊び方やルールを知らせたりするかもしれない。</p> <p>◆□自分たちで遊びを進めていく姿を見守ったり、走る幼児を応援したりする。</p> <p>◆□状況に応じて、教師も仲間の一員として遊びに入り、その幼児やそのときの状況に応じて、スピードを変えて走り、遊びを盛り上げたり、幼児の「もっとこうしたい」という気持ちを発揮できるようにしたりする。</p> <p>☆E児、I児、O児、P児らは旗やポンポンなどを手に持ち、音楽に合わせて、踊ったり、体を動かしたりするだろう。</p> <p>☆D児やF児らが音楽をかけて、タイミングやリズムを合わせてミニバルーンを持ち上げたり、揺らしたり、空気を入れて膨らましたりして遊ぶだろう。また、ボールをのせて、バルーンの上で跳ねさせたり、ボールが落ちないようにバルーンを動かしたりして遊ぶだろう。</p> <p>◆□自分たちで遊びを進める姿や、協力してバルーンを動かそうとする姿、一体感を味わう姿などを見守ったり、認めたりしていく。</p> <p>◆状況に応じて、教師も一緒に遊び、教師自身が表現することを楽しんだり、音楽に合わせて体を動かす楽しさや心地よさを幼児と一緒に味わったりしていく。</p> <p>◆□幼児同士が、踊ったり、表現したりする姿が見合えるようにすることを意識して教師の立ち位置を決めたり、言葉掛けをしたりして、互いの表現のよさに触れられるようにもしていく。</p> <hr/> <p>◎芝生に短縄跳びを用意する。名前のついたフックに掛けたり、縄の結び方の手順を表示したりして、自分たちで遊び始め、片付けられるようにする。(イ)</p> <p>◎ひよこの部屋前にフラフープを用意する。(ア)</p> <p>☆前跳びができるようになりたいという思いをもって、繰り返し取り組むだろう。</p> <p>◆□繰り返し挑戦しようとする姿を認め、タイミングやジャンプの高さ、手の使い方、姿勢など、それらに着目できるような働きかけを行い、幼児自身が自分なりにコツを掴みながら意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>☆うまくいなくても繰り返し取り組もうとする幼児もいれば、跳べずにすぐにやめてしまう幼児もいるだろう。</p> <p>◆□期待をもって様子を見守り、幼児自身が「やってみよう」「やり遂げよう」という気持ちが発揮できるような状況を作っていくことを頭におき、長期的な視点をもって一人一人に関わっていく。</p>

	<p>◎遊戯室横に、コンテナを用意しておく。(ウ)ひよこの部屋前にしっぽ取りのしっぽを用意しておく。(ア)</p> <p>☆A児、B児、D児、H児、I児、L児、M児、N児、P児らは、互いに誘い合い、コンテナを運んで場を作ったり、役割を決めたりして、泥警やバナナ鬼を始めるだろう。</p> <p>◆自分たちで遊びを進めていく姿を見守ったり、状況に応じて、教師も仲間の一員として遊びに入り遊びを盛り上げたりしていく。</p> <p>☆役割が決まらないことやルールの捉えの違いからもめごとになるかもしれない。</p> <p>◆□役割やルールをめぐるもめごとになったときには、「つながりマップ」から読み取ったそれまでの幼児同士の関わりや関係性を参考に、それぞれの思いを幼児が友達に伝えられる状況を作り、互いに相手の思いを聞いたり、それを受けて考えたりすることができるようにしていく。それぞれの思いや意図、起こった結果や今の状況が見えやすくなるよう、話を整理したりして、この後どのようにするか、幼児同士でじっくりと考えたり、話し合っ決めていくことができるようにしていく。</p>
	<p>◎保育室にイメージしたことを実現できるように、折り紙、カラーポリ袋、テープ類、画用紙、ペンなどを用意しておく。(エ)</p> <p>☆C児、E児、F児、I児、J児、K児、O児、P児らは、遊びに必要な物を作るだろう。その際、遊びに必要な物を出し、どのような方法で作るか、友達と考えを出し合ったり、相談したりするかもしれない。</p> <p>☆絵本やタブレットを見たり、以前の経験を思い出したりして、自分で使う素材を選んだり、友達と一緒に探したり、教師に要求したりしながら、自分たちで工夫して完成させる幼児もいるだろう。一方、どのように実現していったらよいか分からずに、教師を頼る幼児もいるだろう。</p> <p>◆□幼児が自分の力で、考えたり、友達に聞いたりして自分の思いやイメージを実現しようとする姿を見守っていく。状況に応じて、幼児のもつ思いやイメージを引き出したり、これまで遊びの中で使った素材や経験した方法を思い出せるようにしたり、イメージに合う素材や方法をいくつか提示したりして、幼児自身が考え、選び、自分自身で実現させる喜びや満足感を味わえるようにする。</p>
<p>片付け (10:45)</p>	<p>◎保育室に段ボール、パーテーション、ジョイントマット、ハンガーラックなどを準備しておく。(オ)</p> <p>☆E児、I児、L児、O児、P児らは、段ボールやパーテーション、ハンガーラックなどで場を作り、家やキャンプなどをイメージして遊ぶだろう。</p> <p>◆□遊びの中の幼児同士のコミュニケーションを通じて、共通の願いや目的が生まれていく過程を見守っていく。また、必要に応じて自分たちなりの考えをより明確にしたり、一層楽しくなるような工夫の共有化につながったりするきっかけとなるような働きかけを行っていく。</p>
<p>みんなで遊ぶ (11:00) 歌を歌う 「きのこ」 「ピクニックマーチ」</p>	<p>☆友達と一緒に歌うことや音楽に合わせて触れ合っ一緒に遊ぶことで、友達と一緒に表現する楽しさを感じるだろう。</p> <p>☆友達と歌ったり、踊ったりする心地よさを感じてきていることで、自分の気持ちを込めて表現する幼児もいるだろう。</p> <p>◆教師もピアノを弾きながら楽しんで歌う。学級の友達と気持ちを合わせて歌う楽しさや心地よさを感じながら歌う姿、自分の気持ちを込めて表現する姿を認めていく。</p>

<p>パネルシアターを見る</p> <p>友達とふれあって遊ぶ 「モンスター列車」</p>	<p>◎パネルシアター「おばけマンション2」を用意する。</p> <p>◆教師が案内人になりきって演じたり、音楽を有効に使ったりして、幼児がおばけマンションのイメージを浮かべ、一緒に探検しているつもりで、ストーリーを楽しめるような雰囲気を作っていく。</p> <p>◎いろいろなモンスターになりきって、触れ合い遊びができるよう、モンスターの絵を掲示する。</p> <p>◆教師自身が、モンスターになりきって表現することや触れ合って遊ぶことを楽しむ姿を見せ、楽しい雰囲気を作っていく。</p>				
<p>給食を食べる。 (12:00)</p> <p>振り返りをする。 (13:30)</p> <p>降園準備 降園 (14:00)</p>	<p>◎幼児が楽しかったことやおもしろかったこと、発見したこと、工夫したこと、友達への思いなどを振り返ったり、伝え合ったりする時間を設ける。</p> <p>☆幼児は楽しかったことや、友達として楽しかったこと、嬉しかったことや、おもしろかったことなどを伝え合うことで、翌週の遊びに期待をもつだろう。</p> <p>☆自分の関心があることが話されると、すぐに反応して騒がしくなったり、自分の興味のある事柄だけしか聞かずに、ふざけて遊んだりする幼児もいるかもしれない。</p> <p>◆教師自身が、幼児の思いや気持ちを受け止める姿勢をもつ。また状況に応じて、言葉を付け加えたり、思いを尋ねたりすることで、話が伝わりやすくなり、友達の話に興味や関心ももてるように投げ掛けたりして、思いを伝え合うための工夫や援助を行っている。</p>				
<p>反省・評価の観点</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="343 985 399 1164"> <p>幼児側</p> </td> <td data-bbox="399 985 1444 1164"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりする幼児の姿が見られたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進める姿が見られたか。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="343 1164 399 1370"> <p>教師側</p> </td> <td data-bbox="399 1164 1444 1370"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりするための環境の構成ができたか。また、幼児自身が「やってみよう」「やり遂げよう」などという気持ちを自ら発揮していくような援助ができたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進めるための環境の構成や援助ができたか。 </td> </tr> </table>	<p>幼児側</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりする幼児の姿が見られたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進める姿が見られたか。 	<p>教師側</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりするための環境の構成ができたか。また、幼児自身が「やってみよう」「やり遂げよう」などという気持ちを自ら発揮していくような援助ができたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進めるための環境の構成や援助ができたか。
<p>幼児側</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりする幼児の姿が見られたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進める姿が見られたか。 				
<p>教師側</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いや願いをもち、考えたり、工夫したり、挑戦したりするための環境の構成ができたか。また、幼児自身が「やってみよう」「やり遂げよう」などという気持ちを自ら発揮していくような援助ができたか。 ・友達と共通の願いや目的をもち、思いやイメージを伝え合ったり、工夫したりしながら、一緒に遊びを進めるための環境の構成や援助ができたか。 				

〈年長保育室〉

